

**鋼橋技術研究会**  
**鋼とPC斜張橋の**  
**特性比較研究会**  
**報 告 書**

**平成7年10月**

## § 1. まえがき

本格的斜張橋の歴史も40年余りとなり、世界各地に多くの斜張橋が架設されてきた。1955年、スウェーデンのStromsund橋が近代斜張橋の幕開けとして、当時の西ドイツの技術で建設されたが、目下、日本では本州四国連絡橋の多々羅大橋の工事が順調に進められている。これまで斜張橋は、あらゆる支間長に対応しながら長大化の道を歩んできた。この理由は、経済性はもとより、構造形態の自由度の高さと、その形式の美観とによるところが多いと思われる。

また、架橋地点の地形条件や空間的制約の中でも、タワー・ケーブル・桁の組み合わせにより、橋梁としての必要条件を満足させ得るからであろう。そのため最近では、我が国においても鋼斜張橋だけでなく、PC斜張橋の架橋数が多くなり、その支間長も年々伸びているのが現状である。

そこで鋼橋技術研究会では、鋼斜張橋とPC斜張橋の構造特性について、種々調べてみることを目的として当研究部会が設置された経緯がある。

この「鋼とPC斜張橋特性比較研究部会」は、平成4年に設置され3年間の部会活動を続けてきたが、都合18回の委員会を開催し、実際の活動内容は、①国内斜張橋、②海外斜張橋、③材料、④工費の4つのワーキンググループによって行ったものである。

ここでは230橋余りの斜張橋のデータをもとに検討してみたが、その過程で多くのことを学ぶことが出来た。データ整理も部会員の努力によりまとめることができた。今後、斜張橋を計画する際に、この資料が役に立てば幸いである。